

子どもたちの現状を踏まえた学校保健の方向性

我が国の学校保健は、昭和33年に制定された学校保健法により現在の制度が形作られ、伝染病やう歯などの健康課題については学校保健の諸施策が大きな成果をあげたと考えます。

一方、近年の社会環境や生活環境の急激な変化により、子どもの間でも、

生活習慣の乱れ、いじめ・不登校などのメンタルヘルスに関する課題

児童生徒のアレルギー疾患の増加の問題

性の問題行動や薬物乱用に関する問題

といった現代的な健康課題が顕在化してきており、最近、近年の子どもの健康に関する実態を様々なデータで振り返りながら、「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組をすすめるための方策」について検討が進められています。

中央教育審議会での検討状況によれば、まず、

学校保健に関する学校内体制の充実

校長のリーダーシップの下、養護教諭、保健主事、学級担任などが、組織的・計画的に学校保健に関する取組を進める必要があることから、養護教諭の研修の充実、複数配置、臨床心理士等のスクールカウンセラーの配置の促進等が検討されている。

学校、家庭、地域社会の連携の推進

子どもの現代的な健康課題に対して、学校が適切に対応していくためには、学校が、学校内でできること、なすべきことを明確化するとともに、家庭、関係行政機関、医療機関などにもその内容を伝え、理解を求めることによって適切な役割分担に基づいた活動を行うことが重要として所要の措置を検討するとしている。

が、あげられています。

が、こうした検討の中で、学校医・学校歯科医・学校薬剤師については、引き続き子どもの健康課題についても、学校と地域の専門的医療機関とのつなぎ役になるなど、積極的な貢献が求められると同時に、子どもの健康課題が多様化、専門化する中で、生涯にわたって子どもが自らの健康課題を理解し、進んで管理できるようにするため、保健管理のみならず保健教育においても専門知識に基づいた貢献が期待されています。

私達、学校薬剤師もこうした健康課題の重要性をしっかりと把握することで、たとえば、

児童生徒のアレルギー疾患の増加

ここ数十年のアレルギー疾患の増加の問題については、環境因子によるものとそれに伴う生体の免疫系の変化が原因といわれています。喘息の症例1つを取り上げても、学校保健統計で3%前後であったものが、平成18年の文科省の「アレルギー疾患に関する調査研究報告書」では5.7%と2倍近くの数値が公表されています。揮発性有機化学物質、ダニアレルゲンといった環境衛生検査を通して、環境要因・数値の正しい見方とその対処法をご指導いただければと考えます。

メンタルヘルスと薬物乱用に関する問題

今、学校でも、病気の治療薬の服用や、うつなどによる心療内科等の処方薬の服用といった医薬品の使用が多く見られるようになっていきますし、また、在宅における麻薬の処方も広がってきています。今までの薬物乱用防止教育をもう一回り拡大して、医薬品の正しい使い方・適正使用がいかに重要であるかを説くことで、誤った使用は健康被害が必ず生じることをしっかり指導したい。具体的には、県学薬（学薬部会）で行っている「薬の正しい使い方」の普及・啓蒙を図りたい。

といった貢献ができるのではと考えています。

会員の先生方のますますのご貢献を何卒、宜しくお願い致します。

< 12月・1月の活動報告 >

12月21日（金）

H20学校環境衛生・薬事衛生協議会 準備委員会2

会 場：ウイルあいち

1月14日（火）

学校保健検診懇談会

会 場：愛知県医師会館

1月19日（土）

名古屋市学校薬剤師会

1月20日（日）

愛知県学校薬剤師会・学校薬剤支部会 合同役員会

会 場：アイリス愛知

1月20日（日）

愛知県学校薬剤師会学薬関係者受賞祝賀会・新年会

会 場：アイリス愛知

1月29日（火）

県立高等学校尾張支部合同研究会

会 場：甚目寺中央公民館

講 話：「アレルギー疾患の増加と環境衛生」

講 師：木全勝彦